

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（地域魅力アップイベント創出育成事業、産業活性化 プロジェクト促進事業）
開催日時	令和4年8月23日（火） （午前・ 午後 ） 2 時 30 分 開会 （午前・ 午後 ） 4 時 30 分 閉会
開催場所	茨木市福祉文化会館 201
議 長	野口 義文 氏（立命館大学産学官連携戦略本部）
出席者	野口義文氏（立命館大学 産学官連携戦略本部）、前川哲司氏（北おおさ か信用金庫 業務推進部）、辻田素子氏（龍谷大学 経済学部）、板倉幸司 氏（公募市民） 【4人】
欠席者	伊津田崇氏（中小企業診断士）
事務局職員	武部商工労政課長代理兼商工振興係長、上山商工労政課職員【2人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業及び茨木市産業活性化 プロジェクト促進事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金の選考について ・資料3 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表 ・資料4 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料5 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料6 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～6説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

1件目のIBARAKI DANCE STREET 実行委員会(以下申請者)から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：夏に芝生広場で開催された際の収支報告書と、今回クリエイトセンターで開催する際の収支報告書を見比べると、前は出演者から参加料を徴収し、今回は観覧者から入場料を徴収しているが、それはなぜか。

申請者：ダンス業界では、屋外イベントと屋内イベントで出演費の徴収方法が異なっており、屋外は出演料、屋内はチケットノルマの販売料という形で徴収している。ノルマという形にしても、席数制限があるため、おそらくチケットは取り合いになると思われる。また、ホールは1階席と2階席があるが、2階席は出演するスクールの生徒たちのために確保したいと考えているため、より席数には制限が出てくる。

A委員：出演者は何組を予定しているのか。

申請者：昼の部、夜の部それぞれ20組ほどを予定している。一つのチームは10～30人になると考えている。

B委員：夏に開催された際から予算が100万円ほど増額になっているが、その要因となる動画撮影や編集費は、どのような意図や効果があるのか。

申請者：以前コロナ禍において、動画を利用した発表会を開催した際、動画の有効性を強く感じ、今回も動画撮影を予定している。また動画の視聴数といった効果については、自分のSNSのフォロワーが3,000人ほどおり、海外のフォロワーも多く、海外に向けた周知効果もあると考えている。

C委員：実行委員会名簿に名前のある方は、皆市内でダンス教室を開いているのか。
申請者：ダンス教室という形で指導しているのは私だけで、その他の人は大学等でダンスを教えている人や、教え子の人もいる。
C委員：チケットは取り合いになると言っていたが、一般の人はチケットの購入は出来ないのか。
申請者：先ほど2階席は出演者が座ると説明したが、チケットの販売数が一定数を超えた場合は、2階席を一般の購入に充てようと考えているため、関係者ではない人の観覧も可能となっている。
C委員：夏開催の際の入場者数は、どのように算出しているのか。
申請者：出演者の関係者数やステージ前の人数からおおよその数を割り出し、その他は会場を定期的に目視で計測していた。
D委員：けが等の事故が発生する可能性もあるが、保険はどうしているのか。
申請者：実行委員会名義で保険に加入予定である。
D委員：令和5年度以降の収入が大きく増加する見込みだが、協賛金等を集めるのではなく、単純に参加者が増えると想定しているのか。
申請者：出演者が増えることに加え、今回は中央公園グラウンドでの開催を予定しており、その際は店舗の出店数が増えることによる出店料の増額が見込まれる。
C委員：次年度以降委託費も大幅に増えているが、それはなぜか。
申請者：今年度は会場が芝生広場だったが、来年度はグラウンドでの実施を予定しているため、会場の施工や音響照明といった舞台設営費が増額になる予定である。

(4) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1件目のeva-creative（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：事業予算の約4割にあたる150万円ほどをクラウドファンディングで募る予定だが、11月からの1か月間で達成は可能なのか。
申請者：私が所属する青年会議所でのつながりで、様々な方に相談しており、計画内容について精査を行っている。そのうえで、手数料が徴収されるクラウドファンディングだけで費用を集めるのではなく、企業からの直接協賛の申し出等ももらっている。
A委員：掲載企業の募集を9月から始める予定とのことだが、いつまで募集するのか。
申請者：10月から1月まで中身のデザインの期間を設けているため、受付後随時ページ作成は行っていく予定をしているが、できれば11月までには募集を締め切りたいと考えている。
A委員：紙媒体を発行する際、情報の更新ができないというデメリットがあるため、企業紹介ではなく、職業紹介に重点を置いたものにした方が良いのではないかと感じたがどうか。
申請者：職業紹介という主旨にはしているが、アドバイスを適宜反映させたい。
B委員：今回配布先が小学校から高校まで幅広く予定されているが、小学生と高校生では

レベルの差にばらつきがあると思われる。そのため内容やターゲットの吟味をしなければ、良いものを作っても手に取ってもらえないのではないか。また予算の半分は製本費となっているが、手に取ってもらえるかは、体裁ではなく中見が大切だと思われるため、ハードカバーや本の形にこだわらず、予算との兼ね合いをもう少し検討してみてもどうか。

申請者：紙媒体にこだわっているのは、子どもたちが将来の選択をする際、検索では、興味のないものには触れることができないため、図書館等で手に取って、選択肢を増やすきっかけになってもらえたらと考えている。

C委員：掲載する職業の選び方について、応募してきた企業を掲載するという形だが、茨木市内には研究施設やバイオベンチャー企業もあるため、そのような企業も網羅出来ればいいのではないか。またこの図鑑は今後も発行していくのか。

申請者：図鑑は今後も発行していく予定だが、毎年発刊しても内容に大きな変化は無いと思われるため、2年ごとのように少し期間を空けつつ、企業にもヒアリングを行いながら適宜情報を更新し、発刊していきたいと考えている。

D委員：今後、自身のビジネスにもつなげていかれるのではないかと思うが、そのあたりはどのように考えているか。

申請者：将来全国で同様の図鑑を作りたいと思っており、今後近隣市でもその土地のキャラクターを用いて同様の事業を行っていききたいと考えている。

(4) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

2件目の茨木コモンズ（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：広報媒体がチラシ・ポスターのみとなっているが、SNSは活用しないのか。

申請者：SNSも適宜活用予定である。

B委員：イベントで出店したお店が、本来どこにあるのかわからないという事もよくあるため、パンフレット等に地図や情報を掲載し、QRコードでネット上でも見られるような工夫をしてみてはどうか。また雨天時の対応はどう考えているか。

申請者：イベントチラシには、カタログのような内容も掲載する予定をしている。天候については少雨の場合は決行するが、荒天の場合はイベントを中止する予定である。

C委員：来場者の内訳は、市内市外どのような想定をしているのか。

申請者：ほとんど市内の方を想定している。市外のコーヒーショップの方もゲストとして招くため、一部そのファンで市外の方の来場はあるかと思うが、基本的には市内の方をターゲットにしたイベントになっている。

C委員：荒天の場合中止とのことだが、トークイベントなどはオンラインに切り替えて開催も可能ではないか。

申請者：よほどの荒天にならなければ、ステージに雨除け等を付け、開催する予定である。しかしワークショップなどは火を使ったようなものも想定しているため、それらは雨の場合は中止になる可能性がある。

C委員：来年度以降はどのような展開を考えているのか。

申請者：北摂全域でのコーヒーイベントとして拡大していきたいが、まずは一度開催してみ、今後年1～2回程度実施していけたらと考えている。一般的な飲み比べができるコーヒーイベントに対し、このイベントは参加型のイベントを想定しているため、場所の確保等の懸念事項はあるが、最終的には北摂全域で開催出来ればと考えている。

D委員：大手コーヒーチェーンがイベントに参画することも可能なのか。また参加事業者を選んだ基準等はあるか。

申請者：大手のコーヒーチェーンが参画したいと申し出た場合は、参加してもらおうと考えている。そのような事業者が参画することにより、参加者にもそれぞれの良さを感じてもらえることは良いことだと思う。参加事業者については、市内の自分が知っているカフェ事業者のほとんどに声をかけたが、個人でお店をしている方が多く、当日お店を離れられないとお断りをされた経緯があり、参加を表明してくれたところに参加してもらおうという形になっている。

5 審査結果

(1) IBARAKI DANCE STREET 実行委員会

480 点中 330 点 ⇒ 採択案件

(2) eva-creative

480 点中 319 点 ⇒ 採択案件

(3) 茨木 commons

480 点中 335 点 ⇒ 採択案件

<選考基準>

出席委員の評価点合計の 65%以上 (120 点×4 人×65%=312 点) を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の 1/2 (120 点×1/2=60 点) 以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上